

G

グランシップマガジン

[ジー] vol.30

GRANSHIP magazine
SPRING 2006

SPECIAL-1
**鉄道模型を
楽しもう!**

次代を創る顔

女優 佐津川 愛美

しずおかアーティスト・リレー

建築家 高橋 晶子

SERIES わが羅針 第30回

茂山 千之丞

SPECIAL-2
メセナのチカラ。

メセナの「顔」 特別対談

村松友視の文化漫遊 ⑩

グランシップ ベンクラブ

大川 信子 (常葉学園大学教授)

鉄道模型を 楽しもう!

インフェスタがやってくる!



まずは何が
必要？

What's necessary?

車 輛



最初に手に入れたいのが車輛。車輛には電車や機関車など動力をもつ車輛と、客車や貨車など動力を持たない車輛があるので、走らせて楽しむなら、まずは動力車から。

レール



バラスト(砂利)を敷いた台(=道床)に取り付けたレールと、道床ナシのレールがあり、それぞれ直線レール、曲線レール、ポイントでつないでいく。

パワーパック



家庭用の交流100Vを直流0~12Vに変換して使用するためのパワーパック。レールに電気を流すことによって、動力を搭載している車輛を動かすしくみ。

ストラクチャー



ジオラマ上の建物で、駅舎、コンビニエンスストア、農家、トンネル、鉄橋といろいろ。どの国のどの時代、どの風景にするかは、走らせる車輛によって決めたい。

鉄道ファンと

いっても、その入口はさまざま

だ。実車派、撮影派、時刻表派、グッズ派など、きわめる道は多岐にわたり、鉄道模型はその枝葉の一つである。

ところで「趣味を持たなければ、天才も高等な馬鹿にすぎない」とはフランスの諺だが、「趣味」という語を辞書で引くと、「専門としてではなく、楽しみにすること。余技。ホビー。」とある。また、「物の美しさ・面白みを鑑賞しうる能力。好み。センス。」とも記されている。

好み、センスは千差万別。楽しみを求める先も人それぞれであり、だからこそそれは趣味と呼べるのかもしれない。

日本では「悪趣味は無趣味にまさる」というが、そんなゴマンとある趣味の世界でも、King of Hobby とうたわれし趣味。それが鉄道模型なのだ。

King of Hobbyの称号を問はず
「趣味の楽」

今年もトレイ

産業革命の

まっただ中、イギリスのマシュー・

マーレイによってつくられた1/12模型

が、最初の鉄道模型といわれる。日本では、

「からくり儀右衛門」と呼ばれた幕末の天才技術者、田中久重が外国の絵巻物をもとにつくった機関車雛形が第1号だそうだ。

鉄道模型に出会ったら、目線を模型の位置と同じにして、しばし見つめてみよう。するとレールをききまかせて走るその音が聞こえてくるかもしれない。過ぎ去る車窓の景色、流れる風を感じるかもしれない。かつて電車の運転士に憧れた人も、そうでない人も、童心にまかせて、小さくて大きなジオラマを想像の世界に広げてみようではないか。

儀右衛門がひらいた楽園

「集める」「つく

る」「走らせる」というのが、

鉄道模型の代表的な楽しみ方だ。もちろんどこから入ってもいい。まずは、幼い頃乗った思い出の車輛一つを手に入れることから始める。そのくらいのスタンスでいいのだ。また、鉄道に関する知識は、自然についてくるもの。車輛を走らせなくなったら、電気配線にも詳しくなる。自分の手で仕上げたくなれば、塗装や接合の技も磨かれる。先へ進めば進むほど、その世界は深く広く開かれている。そして、うれしいのは、同じ趣味を持つ仲間が多いということだ。鉄道模型のクラブに入会して、その楽しみを共有、交歓できる。そのネットワークの広さ、層の厚さも、キングと呼ばれる所以だ。

心細く鳴らさず
レールの楽園へ

実物そっくりの感動から、加速する楽しさ！

ごく個人的な密やかな楽しさについて「どこがそんなに面白いの？」と尋ねるのは愚問だろう。なぜなら、それを楽しむ人だけが知る楽しみ、それが趣味なのだから。

しかし、鉄道模型とは不思議なもので、それまでほとんど興味がなかった人でも、それが自分の目の前に置かれたら、きつと眺めなくなる。手にとつてみたくなる。走らせてみたくなる。ある人によると、それは自分が見たことのある、地上を走る実物とそっくり同じもの、その精巧なミニチュアと出会った喜びがそうさせるのだという。しかも、手にした瞬間にその楽しさがなんとなくわかるというのだから、まずはそれにふれることから始めてみよう。

線路の幅が違えば、世界観も変わる！

鉄道には、線路が必要である。そこが船や飛行機など、他の乗り物と決定的に違うところだ。つまり車輛と線路、両者の間にはきちんとしたサイズのルールがあるということだ。

より専門的にいえば、スケールという車輛の大きさの縮尺と、ゲージという線路の幅(軌間)が見合っていることが基本。たとえば1/80のスケールなら、ゲージは16.5ミリという具合だ。そして、鉄道模型の規格は、スケールではなく、「HOゲージ」「Nゲージ」というように通常ゲージで呼ばれる。

現在、日本で最も愛好者が多いのはNゲージだが、どう楽しみたいかによって、おすすめ規格は異なる。なお、ゲージは平行する2本のレールの内側のサイズで、これは実物も同様だ。

最小ゲージの車輛の幅は、女性の指ほどのサイズ。

ドイツのメルクリン社が開発したゲージで、これ以上小さな鉄道模型はないとの意でアルファベットの最後の文字「Z」を使用したといわれる。実際に現在製品化されている規格の中では最小クラス。日本のメーカーでは、製品化されていないこともあり、国内では出会うことが少ない。

ゼットゲージ

日本では支持率トップ。ゲージが9 (nine)だから「N」。

ゲージが9ミリなので、nineの頭文字からNゲージと呼ばれる。国際標準のスケールとしては、1/160になるのだが、日本では1/150。つまり車輛の大きさに比べて、線路幅がやや大きめのため、日本型のNゲージモデルは、ガニマタ気味。ただし、世界標準軌間を採用している新幹線は、1/160仕様。HOゲージにくらべて手軽なことから、愛好者も幅広い。

エヌゲージ



日本型 1/150 (海外 1/160)



6.5mm
1/220

鉄道模型ゲージ比較<原寸大>
撮影協力/さの模型(静岡市)

縁部分。レールに流れる電気を遮断する。【ジオラマ】情景のみの模型。車輛は走らせず、走らせる場合はレイアウトと呼ぶ。【シーナリー】レイアウトやジオラマ上の【動力車】モーターを搭載した車輛。【フィーダー】線路とパワーバックを接続して走行できるようにする電気配線。【ブラキッ】プラスチックの組み立てキット。【フレ】【レイアウト】鉄道模型の車輛を走らせるためのパノラマ。



リアルおもちゃも続々。大人も楽しめるトイ・トレインの世界。 鉄道おもちゃ

決まったゲージとスケールに基づく精巧な「鉄道模型」と、特徴をデフォルメし、楽しさを追求した「鉄道玩具」は、まったくの別物。しかし、侮るなかれ。チョロQやオマケシリーズから、電気配線が簡単で遠隔操作できるもの、Nゲージの全長を縮めたリアルタイプなど、いかにも子ども向けのオモチャ的なものから、大人も欲しくなる造形的に優れたものまで続々登場。今や鉄道模型ファンも注目のジャンルだ。

往年の王者の風格。重厚感のある姿と音は、「O」ならでは。

HOゲージのほぼ倍の幅を持つゲージで、半世紀ほど前には鉄道模型といえば、交流式の3線式Oゲージが主流だった。日本とヨーロッパのスケールは1/45だが、アメリカだけは1/48。楽しむためには広いスペース、相応の費用が必要だが、重厚感のある姿と音は、Oゲージならではの。

オーゲージ



32mm
日本・ヨーロッパ型 1/45 アメリカ型 1/48



■ 運転台型コントローラー

左右のハンドルで車輪を動かす、実物そっくり電車運転台で、実車の感覚が楽しめる。



■ コントロールボード
レール上を走行する列車や駅構内のポイント操作をここでコントロール。



■ ターンテーブル

蒸気機関車の黄金期には大きな駅には必ずあった転車台。車輪を寄せたまま回転して向きを変える。

Oゲージの半分を意味する「Half O」の頭文字をとった名称。欧米では、世界標準軌間とされる実際の線路幅1435ミリの1/87スケールから割り出した16.5ミリゲージで、日本ではこのゲージをもとにして、車輛スケール1/80としていることから、「日本型HO」と呼ばれる。真鍮からプラスチックまで多彩な製品が出回っているが、Nゲージと比較するとやはり高価。しかし、自分で「つくる派」は、ディテールには凝りやすいこのゲージが選ばれている。

エイチオーゲージ



16.5mm
日本型 1/80 (海外 1/87)

世界的に最も普及している「HO」は、細かな表現や質感が魅力。

鉄道模型用語解説

【エンドレス】 つながって一周している線路配置。レイアウトの基本の一つで、主流は小判型。【カブラー】 車輛の連結器。【ギャップ】 レールの繋ぎの絶木々や 草、山など、自然を表現する部分。【ジョイナー】 レールとレールを接続する部分。通常金属製で通電される。【スパイク】 レールを固定する釘。【キシブルレール】 レイアウト用のレールで、自由にカーブを描くことができる。【ポイント】 線路の分岐機器。【ボギー式】 車体の下に台車を履かせた車輛。



貨車



電気機関車



ディーゼル機関車



蒸気機関車



最近ではコンテナ車が多く、車体の小さな貨物車を見ることも稀に。その分、鉄道模型で長大編成で楽しみたい。

通称「電関」(でんかん)。パンタグラフを先頭に走る電気機関車の人気は、蒸気機関車に次ぐ。

時代はやがて蒸気機関車からディーゼル機関車へ。しかし、今では列車そのものが消えつつある。

鉄道模型ファンを増加させたのが昭和40年代のSLブーム。現在、往年の勇姿を再現できるのも、鉄道模型であればこそ。

トレインフェスタ 2006



5/13(土)・14(日)

10:00~17:00 (5/14は15:30まで)

大ホール・海、中ホール・大地、グランシップ広場、展示ギャラリー、交流ホールほか

入場は無料につき、気軽にチラっとのぞいてみるのも結構。しかし、できれば途中、駅弁などを広げたりしながら、長旅気分ですべて満喫するのがおすすめ。各会場を各駅停車で楽しめば、鉄道模型の魅力がより深く感じられるはずだ。

ほかにも人気の電車運転シミュレーションゲーム「電車GO!」コーナーもある。名物駅弁や鉄道グッズ、鉄道おもちゃの販売コーナーなどもぜひチェックしたい。また、昨年同様、第2会場としてJR東静岡駅北側のインフォレスト静岡でワークショップなども行われる予定だ。

毎年恒例の2日間には、鉄道ファン、鉄道模型ファンばかりでなく、ファミリーなどで会場はいっぱいになる。それもそのはず、鉄道模型関連のイベントとしては、国内最大級。昨年も3万人近くを集めた大イベントなのだ。たとえば大ホール・海には、日本や海外の鉄道模型およそ5,000両が集結。Oゲージから、HOゲージ、Nゲージのデモ走行が見られるだけでなく、Nゲージ体験コーナーでは、自分で運転することもできる。

文明開化とともに始まった日本の鉄道の歴史。明治5年に新橋―横浜(今の桜木町)間を走った1号機関車は、今ではれっきとしたわが国の重要文化財だが、ほかにもそれぞれの胸の内に思い出の列車が刻まれていることだろう。そして、地上では二度と出会えないその姿に再会できるかもしれないチャンス!それがコレ。年に一度の大イベント「トレインフェスタ」だ。
さあ、お待ちかねのイベントが今年も!





路面電車

レトロな雰囲気いっぱいの路面電車は、実物でも人気が高い。風景を取り込んだ世界観も楽しい。



電

最近ではシルバー系の電車が、鉄道模型の世界には、赤や茶、緑色の電車も健在。



気

気動車ならではのエンジン音を響かせて走るローカル線。国鉄時代の大きな遺産だ。



新

東京オリンピックの開催に合わせて1964年開業の東海道新幹線。当時、高速200kmで走る超特急に世界が驚いた。



客

ローカル線の鈍行列車からブルートレインまでさまざま。蒸気機関車や電気機関車で牽引して楽しもう。



取材協力：静岡HOクラブ

「トレインフェスタ」では、全国のクラブに参加を呼びかけるなど、中核として取り組む静岡HOクラブ。メンバーの四之宮祥夫さん(左)は「最初に自分でつくった鉄道模型は、台車にモーターを積んだだけのものですが、とてもうれしかったのを覚えています。また、河村正幸さん(右)も「小さい頃、駿府公園内の児童会館に展示されていた鉄道模型を飽きずについてまでも眺めていたのがいい思い出。懐かしいですね」。

ふわふわねんどワークショップ

★10F

粘度を使って、オリジナル電車をつくろう!



鉄道写真展

★展示ギャラリー

折々の季節、風景の中を走る勇姿満載。あなたにとってのベスト・ショットはどれ?



鉄道制服撮影会

★中ホール・大地

県内鉄道会社の制服を着て、思い出の一枚を残そう!



鉄道模型Nゲージ体験コーナー

★中ホール・大地

新幹線500系、700系などの運転に挑戦しよう。



クイズ大会

★中ホール・大地

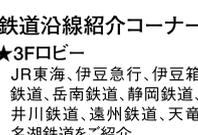
集まれ!鉄道博士。クイズに答えて、賞品をゲットしよう。



鉄道映像上映会

★中ホール・大地

リアルな映像と音の迫力で鉄道の旅を楽しもう。



鉄道沿線紹介コーナー

★3Fロビー

JR東海、伊豆急行、伊豆箱根鉄道、岳南鉄道、静岡鉄道、大井川鉄道、遠州鉄道、天竜浜名湖鉄道をご紹介します。



鉄道グッズ販売コーナー

★1F メインエントランス

さまざまな鉄道おもちゃから、役立つ本などを販売。

「電車GO!」体験コーナー

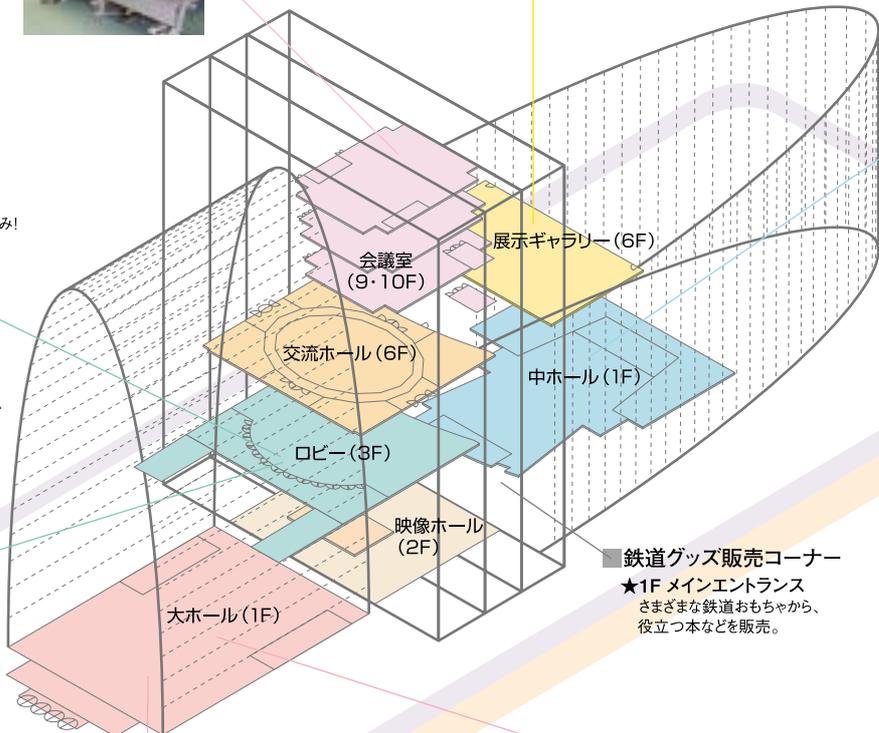
★大ホール・海

人気の電車運転シミュレーションゲームにトライ!



鉄道模型走行コーナー

★大ホール・海、展示ギャラリー、交流ホール
約5,000両のOゲージ、HOゲージ、Nゲージの鉄道模型が集合。さまざまな風景の中を走る、その姿を楽しんで。



県内名物駅弁コーナー

★3Fロビー

鯛めし、うなぎ、茶めし弁当など、静岡県内の名物駅弁がそろい踏み!



県内特産品販売コーナー

★3Fロビー

静岡県の海の幸、山の幸、工芸品やおみやげが一堂に。



グランシップ広場



メセナとは何か。そう聞かれたら、「企業や個人が文化・芸術活動を支援すること」と答えて、おおよそ間違いはないはずだ。

けれども、現代用語としてのメセナの定義は、国などによってもまちまちで、支援のあり方によってその線引きは曖昧なのが現状。メセナという言葉を生んだフランスでさえ、未だ論議が続いているほどだ。

ただ、それをメセナと呼ぼうが呼ばまいが、そうした活動、思想自体は、アメリカやヨーロッパではかなり以前から根づいており、日本の企業も遅まきながら、近年になってようやく食指を動かすようになった。それがま

さにバブル期。社団法人企業メセナ協議会が発足したのは、1990年のことである。

文化芸術活動を支援する。

それが「メセナ」。

それまではほとんどの場合、「スポンサー」という英語が使われており、当時、メセナという言葉は、耳新しかった。それが協議会発足とともに、日本では「企業がパートナーシップの精神に基づいて行う芸術文化支援」を示す言葉として一般に伝播。メセナはたちまち新たな日本語として市民権を獲得するようになったのである。

メセナのチカラ。

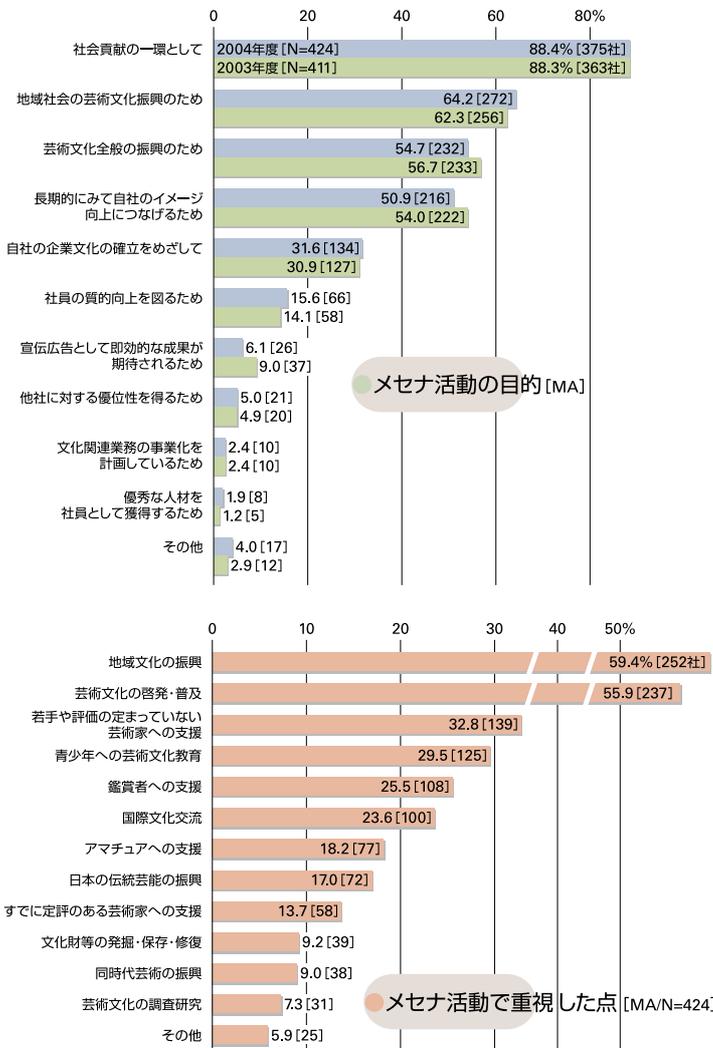
古代ローマ帝国時代、初代皇帝アウグストゥスに仕え、右腕とも称された大臣がいた。皇帝の私的顧問も務める一方、権力で得た富を文芸支援に注いだ一人の男。ウェルギリウスやホラティウス、プロペルティウスら、ローマ文学の黄金期を代表する詩人たちは、みな彼の文芸サークルのメンバーだったという。男の名は、ガイウス・シルニウス・マエケナス (Gaius Cilnius Maecenas)。最近、耳にすることの多いキーワード「メセナ」(Mecenat)の語源となった人物である。

Maecenas

目的は「社会貢献」。地域文化の振興の一翼に。

では、企業は、何を目的としてメセナ活動をするのだろうか。これについて、最も回答が多かったものは「社会貢献の一貫として」が約88%、ついで「地域社会の芸術文

化振興のため」が約64%だった。同様にメセナ活動で重視した点を問うと、「地域文化の振興」「芸術文化の啓発・普及」「若手や評価の定まっていない芸術家への支援」と続き、このあたりはまさにグランシップの事業活動そのもの。事実、グランシップでは、これまでに県内各企業の支援＝メセナを受けてきた。



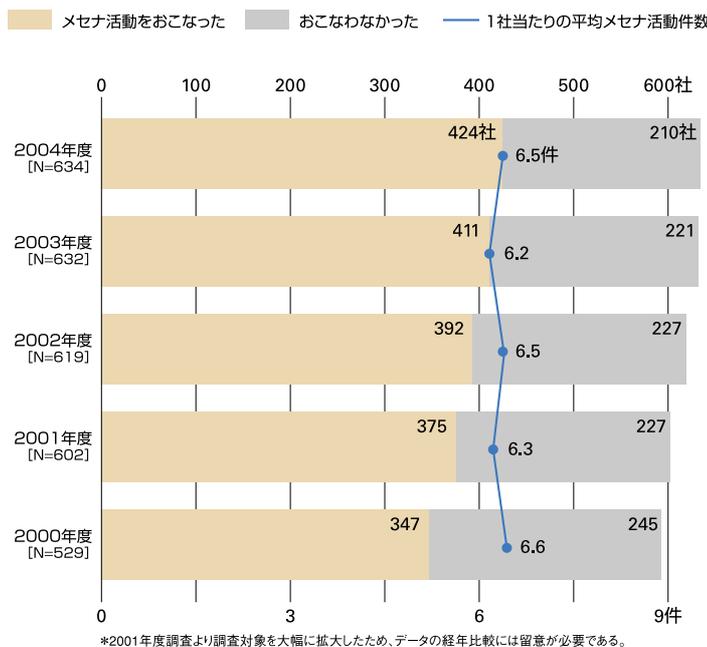
*参考 企業メセナ協議会「メセナ活動実態調査」

定着しつつある、企業のメセナ活動。

昨年、文化庁の芸術団体人材育成事業の一環として、企業メセナ協会が実施したメセナ活動実態調査によると、調査に回答した企業のうち、2004年度にメセナ活動を「おこなっ

た」企業は約67%で、前年は65% 2年前前は63%であったことから、その割合は安定しつつもやや上昇していることがわかる。さらに予算化や実施件数など、基本的数値が安定。また、継続性や地域とのつながりが重視されていることなどから、企業活動としてのメセナは定着しつつあるといえる。

メセナ活動の実施状況及び1社当たりの平均メセナ活動件数の推移 [SA]



メセ

グランシップを通じた地元企業のメセナ活動。

実際、これまでグランシップのどのような事業に、どのような企業がパートナーとして名乗り出てくれたのだろうか。

たとえば「静響コンサートシリーズ」(クレディア)や「ニューイヤーコン

サート」(静岡ガス)は、すでにおなじみのプログラム。そのほかにもバレエ「くるみ割り人形」(米久)、「新世界交響曲」(静鉄グループ)など、最近のものだけでもこれだけある。しかもこれらの企業は、毎年、継続的にサポートを申し出てくれるというのは、グランシップとしても、またプログラムを楽しみにしている人々にとっても、ありがたいことだ。

NTT西日本静岡支店	2001.12 第9回 N響コンサート
クレディア	2003.2 グランシップ静響 コンサートシリーズ Vol.IV
	2003-2005 グランシップ静響 ウィーンシリーズ Vol.1~8
	2005 グランシップ&静響 協奏曲大全集 Vol.1~Vol.3
静岡ガス	2001.12 モーツァルトとサリエリを楽しむタベ
	2003.1 ニューイヤーコンサート 2004.1 ニューイヤーコンサート
	2005.1 ニューイヤーコンサート 2006.1 ニューイヤーコンサート
静鉄グループ	2004.3 グランシップ名曲サロン 2005.2 新世界交響曲
	2006.2 羽田健太郎の素晴らしき世界
米久	2006.1 バレエ「くるみ割り人形」

※企業名五十音順



地域企業が考える「メセナ」とは？

「最近では、点の活動だけでなく、まちづくりを含めた、地域性をもったメセナ活動に目が向いているようです」(山本)

山本 肇

グランシップ館長



メセナの「顔」特別対談

大石 司朗

静岡ガス株式会社
代表取締役社長



「人間に人格、人徳があるように、会社にも社格、社徳がある。メセナはそれをつくる一翼になるはずだ」(大石)

山本：静岡ガスさんは、現在、株価を見ても、業績も好調のようですね。

大石：今の我々の使命

は、まず、天然ガスの普及活動をする事です。清水に天然ガスの受け入れ基地をつくって、稼働を始めたのが1996年で、この10年間で年間販売量が約3倍。そして、2015年に向けて現在の25倍にする計画を立てています。株価は、現在価値ではなく、将来の観点から投資されるのが基本ですから、我々の将来計画を考慮し、長期的視野から当社を「買い」とお考えいただいているということでしょう。

山本：ガス事業というのは、公共性が高い事業ですから、本来の事業の一方で、社会的貢献も求められていると思われ

ますが。大石：株式会社である以上、事業に励んで利益を上げるのはとても大事なことで、税金もしっかり払って、皆さまのお役に立つというのが私の考えです。ただ、例えば環境問題でいえば、温暖化が著しい。それを少しでも食い止めるためにも、いさ

さかなりともお役に立ちたいという気持ちがあります。それで現在進めているのが、一つの一次エネルギーから2種類以上の利用可能なエネルギーを取り出すコー

ジエネレーションシステムの普及なんです。山本：そうした税金による貢献と、環境への貢献と。さらにもう一方では、文化事業への貢献が挙げられますね。企業

の文化貢献はかなり前から叫ばれていて、すでに「企業メセナ」という言葉まで誕生している。「メセナ」という言葉は、そんなに古いものではなくて、せいぜいこの20年のことですが、静岡ガスさんには、これまでグランシップでのコンサートやスポンサーになっていたり、さらに社長には静岡交響楽団の理事長になっていたり。聞くところによると、教育関係では、奨学金制度もあるようですが、それも一種のメセナ活動ですね。文化における社会貢献については、どのようにお考えですか。

大石：こういうことが話題に上るとき、思い出す言葉が一つだけあるんです。日本IBMの社長(現最高顧問)椎名(武雄)さんがお若い頃、世界各地のIBMの社長が集まる会議がアメリカで開かれて、そのときメセナの話が出たらしんです。当時、椎名さんは立ち上げで苦労されていたから、メセナなんてドブに金を捨てるようなものだと言った。するとIBMのトップが言ったそうですよ。ドブに金を捨てるのがお前の仕事だと。山本：でも、実際は、企業のイメージを高める、大きな役割を果たしている。

大石：そう思います。人間に人格、人徳というものがあるように、会社にも社

「ヤングオーケストラ塾では、その子たちが自前のオケをつくるまで見守ることができれば、育成という仕事も本物である」と(山本)



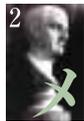
格、社徳のようなものがある。メセナはそれをつくる一翼になるはずだ。昔は余力がなかったこともあるけれども、社外から企画を持ち込まれても、当社はほとんど断っていました。そんなことをするくらいなら、その分ガス料金を下げてほしいというお客さまの方が多かった。でも、世の中の動き、意識の変化もあります。見回せば、近頃は東邦ガス、大阪ガス、広島ガスも取り組んでいる。地元でも静鉄さん、田宮模型さんもやっている。ならば我々も、と。

山本：ちょうど上場された時期と重なって、私どもとしてはタイミングがよかった。(笑)メセナというのは、バブルの頃に盛んになって、それがはじけて長らくは冬の時代でしたが、今は少し盛り返してきたところです。最近では、企業がホールや美術館を運営するような「点」の活動だけでなく、まちづくりを含めた、もつと地域性をもったメセナ活動に目が向いている。それも企業単体ではなく、NPOの団体と一緒にやっていくというふうなね。

大石：確かに「地域メセナ」という言葉を最近よく聞きますね。そういう点でもグランシップが果たす役割は大きいような気がします。

山本：私どもでは、静岡交響楽団を支援しており、今年度は小学生から大学生までが得意の楽器を持ちより、プロの手ほどきを受けた後でプロと合同演奏をするという「ヤングオーケストラ塾」を行ったんですけれども、その折、予想以上に子どもたちの意気を感じました。

大石：それは素晴らしい。この頃、子どもたちのまわりで恐ろしい事件が起



メセナのチカラ。

■静岡ガスの活動プロフィール

- 「ニューイヤーコンサート」(グランシップ)協賛
- 食育への取り組み
- エネルギー環境教育
- 「静岡まつり」など地域事業参加
- 奨学生制度(静岡大学2名、静岡県立大学2名)
- 清水エスパルスへのサポート
- 「小さな親切運動」ほか清掃活動
- 富士山麓ブナ植林への参加
- リサイクル推進、ほか

■静岡ガス株式会社

静岡県中東部を中心に都市ガス事業を展開。現在、静岡市、富士市、富士宮市、沼津市、三島市、裾野市などの7市5町、約30万件に天然ガスを原料とする都市ガスを供給している。

しよう。すると識者から悲観論が出る。でも、お言葉の通り、立派な子たちはたくさんいる。だから、その子たちにいい機会を数多く与えるかなんです。昨年、県の野球連盟の会長をお引き受けしたんですが、夏場、球場で子どもたちの姿を見ているとね、シートノックで相手チームに一礼して、試合前にも、終わった時も互いに一礼する。それ以外でもあちこちで気持ちのいい挨拶が交わされている。そういう光景を見ると、日本の将来、そんなに悲観的なものではないなと思うわけです。また、ある日、ふとテレビを見れば、NHKで俳句甲子園をやっていた。いやあ、高校生の日本語の駆使能力も立派なものだと思えましたね。テニスも、ゴルフも、音楽も、今、活躍しているのは10代、20代でしょう。つまりは育てようなんです。山本…だから、大人の責任は大きいんですね。「ヤングオーケストラ塾」では、その子たちがやがて自前のオーケストラを

つくる、そこまで見守っていきたいと思っています。その一方で、政令指定都市になろうという大きな市で、プロのオーケストラのつも持てないようでは文化都市とはいえないですね。そこに二石を投じたいという気持ちで始めたわけです。静岡ガスさんは、子会社の皆さんも後援して下さりますから、大きな力です。こうしたメセナ活動について、

「今、活躍しているのは10代、20代でしょう。日本の将来、そんなに悲観的なものではないな。つまりは育てようなんです」(大石)



社内的にはいかがでしょうか。大石…クラシックへの関心が高まっていることは確かです。お客さまからも、毎年ニューイヤーのコンサートを楽しみにしているという声はよく聞いています。また、近頃は就職訪問で来られる学生さんが、メセナをはじめ、環境への取り組みに敏感ですね。さらに私どもは食の世界で貢献をしたい、食育という分野でお役に立ちたいと思っています。山本…食べるということ自体、文化ですからね。大石…ただ、メセナ活動への出費が業績によつて上り下がりするのは、端で見ていてあまり格好がいいものだと私は思わない。それが社会貢献活動である以上、一旦始めた以上は、末永く継続性のあるものにしていきたいと思います。山本…グランシップとしても、それはぜひ。大石…私も末永く続けられるよう頑張ります。

「静岡能」に遊ぶ

—梅花を愛でるひと時—

大川

信子

(グランシップペンクラブ会員・常葉学園大学教授)

今年、梅の開花が遅いという。降雪量や最低気温の記録更新が伝えられることと関わるのであろうか。風の吹きよ、雨の降りようにも、ただならぬものを感じる。音が増え、音無天神に参詣する。香りに、梅を探す。見つけて、からだを右に向けた。「ああ、その目の先に梅がある」と思った。瞬時、演者のからだに吸いこまれる気がした。花を見た



梅といえば、『簾』にも描かれる。「梅花のみだれし一枝、折りて簾にさせば」という話の箇所、扇をすぼめて、枝を折りとるさまを表していた。音がしたと思った。

『熊坂』では、熊坂長範の亡霊が現れ牛若丸と渡りあつたときの様子を語る。そのくだりの心覚えに「梅の木のごとく牛若の姿もまた熊坂の目の先」

と書き留めた。梅と見まがう牛若だったか。

隣は、眠らずにいた。舞台上にあるものを見ず、無いものを見る。そこに姿を見せない人や木を在るかのごとくに扱う。それが面白いと言う。あの熊坂に勝る牛若の姿は、胸のうち、客席でその香りを感じ、折りとられる音を聞き、牛若に梅の姿を重ねた。そうして、春の訪れを待つとしよう。

能の原点には、天下泰平・五穀豊穡の祈りがあるという。人は季節の正しい廻りを願う。さしずめ今日は、『義経』を送り、春をいざなう舞台であつた。外界に先立って、梅はほころび、匂いたつ。見えないながら、客席でその香りを感じ、折りとられる音を聞き、牛若に梅の姿を重ねた。そうして、春の訪れを待つとしよう。

梅の姿を重ねた。そうして、春の訪れを待つとしよう。

茂山千之丞

狂言、その壁の外へ。

「あなたのお狂言をこれから拝見します、と言われるの、あれ、腹が立ってしょうがない。そういう人たちが壁をつくり、その壁を私は破ってきた。破ったら、新しいお客さんが来てくれるようになった。だから、今度は我々が壁の外に行く番なんです」

四百年の時を超えた再会。

茂山家には、お豆腐のようになじりでも誰にでも言はれる狂言をという意の「お豆腐狂言」が家訓として伝えられている。高級な味も、庶民の味も、味つけ次第。飽きのこないそれでいて思わず「うーむ」と唸るおもしろい。茂山家の狂言、千之丞氏の狂言だ。狂言界では異端といわれる氏。だが、その志が向く先には、常に「お驚がのびん」おもしろい笑いがあふれる。そしてこの度、舞台の上にはいかなる笑いの美味が待っているのだろうか。

初舞台は二歳とのことですが、ご幼少の頃は狂言の家に生まれる、育つということにとどまらずに受けとめていってほしいとの

でしょう。

「知らないうちに狂言師になってしまいましたね。私は狂言師という言い方がどうも好きではなくてね。狂言役者でいたい。師が付いたのは明治以後ですが、なんかペン師みたいでしょう。(笑)とにかく私は子ども時代から芝居が好きで、学芸会ではヌターでしたよ。(笑)演者としてだけでなく、演出家みたいなこともして、台本も書いていましたね」

では、その後、歌舞伎、新劇、テレビドラマの世界へと足を踏み入れられたのも、「自身ではごく自然なことだったのですね」とはいえ、狂言の世界では初めてとつかがっています。

「タブーだったんです。戦前は歌舞伎の人が映画に出るだけでも大変だった。戦争中、『阿片戦争』という映画に今の市川猿之助さんのお祖父さんが出た。するとそれが国策映画でありながらも、しばらく歌舞伎の舞台に出られなかった。そういう時代ですから、ましてや能や狂言の役者が、映画など他のものに出るなどというとはね」

ことでしたので、「うつけ太郎」という変名

で出ました。テレビのない時分でしたから、ラジオドラマです。狂言役者が他の芝居に出たのは、それが最初じゃなかったですかね」

放送後にお咎めなどはなかったのでしょうか。

「何もありませんでした。変名で出たのがよかったのかもしれませんが、何より時代のおかげです。家元やそれに近い人たちが、私に言わせるとお偉いおじさん連中ですね。その人たちは頭が堅いですけど、反面、権威に弱いんです。その当時、一番権威を持っていたのがジャーナリズムですから、新聞に書かれるのが一番怖かった。その時分のマスコミは何でも書けたし、常に事件を探っていて、しかも表に出る方、反体制側の味方だったんです。そんな社会的な背景があったからやれたというとはいえますね」

狂言ブームといわれる昨今ですが、その当時と今とでは、狂言を観に来られる方は変わりましたか。

「確かにそれまでの観客とは違いますね。今は狂言をあくまで自分が笑えるお芝居の一つとして観に来る。一方、それまでの狂言の観客は、能の観客でした。つまり能を観に来る。その合間に狂言をやっているわけです。昔の能や歌舞伎には休憩時間はありませんでしたので、狂言の時間になるとお弁当を食べたり、会場内でお互いに挨拶などをします。そんなところで狂言なんてやってられません。親父や祖父はさぞ辛かったことでしょう。今では能楽堂でも狂言だけの会がありますね。そこへ来るのは

京極夏彦の初の古典作品集『京極断六儀集』。狂言『豆腐小僧』『新・死に神』や落語『死神remix』などのオリジナル台本・上演台本とともに、千之丞氏の寄稿も。氏いわく「ユーモアの行き着くところはブラック。でも、これまでの狂言にブラックはあまりなかった。そのブラックのユーモアと狂言とが結びついたことが、京極さんとの出会いの一番の収穫だと思いますね」



どのようなところにあるのでしょうか。

「狂言は室町時代の吉本新喜劇、吉本は現代の狂言などといわれ、ある意味、言い得ていると思います。一番の共通点には有名な人が出てこない。名無しのゴンペが登場して、ごくありふれたことを笑いの芝居にしている。しかし、笑いそのものは違っていますね。僕は吉本さんの喜劇を悪く言うつもりはないんです。ただ、今のテレビなどの風潮は、非常に感覚的な笑い、刹那的な笑いでしょう。ところが狂言や落語など古典の笑いは、もつと知的です。替え歌も物まねも本物を知っていないとおかしくないでしょう。それと同じで知識がないと笑えない。その笑いが本当の笑いだと思います。狂言はもともと『和楽』の世界と言われますが、まさにおおらかな楽しさ、後味のいい笑いを狂言はたくさん持っているんです」

それでもやはり能や狂言などは、敷居が高いものとお考えの方も多いと思います。それは受け手の勝手な思い込みなのでしょうか。

「いや、中には役者自身や取り巻きのファン、学者先生にそういう意識がまだあるんですわ。あなたのお狂言をこれから拝見しますよ」と言われるの、あれ、腹が立つでしょうがない。私は拝見されなきゃならないような下手なことはやりませんよ」と言うんです。面白くないのは帰って来てくれればいいんですよ。我々がやっていることは興行。芝居なんです。そういう人たちが古典芸能は崇高なもの、難しいものだから、

好きな役どころは、「いろんなキャラクターを併せ持つ」太郎冠者。そして、お坊さん。「今と違って、当時のお坊さんは、一生懸命生きていますからね」



【しげやま せんじょう】

1923年京都生まれ。狂言役者。演出家。2歳で狂言「以呂波」のシテにて初舞台。23歳で「釣狐」を抜く。兄の千作と共に狂言の普及、復曲・新作狂言に努める一方、1948年狂言役者としては初めてラジオ・ドラマに出演。以後武智鉄二氏を中心とする新しい演劇運動に参加。舞踏劇・歌舞伎・前衛劇・テレビドラマ・映画等に出演し、76年より上演の新劇「夕鶴」とひょう役では出演500回を越えた。また、宝塚歌劇やストリップの演出も手がけ、狂言界の異端児と呼ばれる。93年観世寿夫記念法政大学能楽賞、94年大阪芸術賞・京都新聞文化賞、95年度芸術祭賞演劇部門優秀賞、96年芸術選奨文部大臣賞、98年松尾芸能賞優秀賞等受賞。著書に「狂言役者...ひねくれ半代記」(岩波新書)「狂言じゃ、狂言じゃ!」(文春文庫)、日本能楽会会員。京都能楽会相談役・狂言協議会幹事。重要無形文化財総合指定保持者。

観る前に勉強したほうがいいなどという。壁をつくってるんですよ。少なくとも私はそういう壁を破ってきた。破ったら新しいお客さんが来てくれるようになった。今度は我々が壁の外に出て行く番なんです」

四月にグランシップで上演される『京極 嘸』も、そうした試みの一つと考えていいですか。

「そうですね。あれは狂言の世界へお客さんを呼び込んでるんじゃないんです。狂言が出て行って、新しいお芝居をつくっているんです。やっとそういう時代になりました。では、壁の外へ出たことであらためて知る、狂言の魅力とは何でしょう。」

「狂言というのは、本来、何でもありません。それを京極(夏彦)さんの芝居をはじめ、さまざまな新作狂言を通していよいよ実感しましたね。たとえば梅原猛さんの『スーパー狂言 王様と恐竜』という芝居には、人間以外に軍艦や水爆だとか、正義という概念まで登場人物として現れて、王様としゃべったりするわけです。それを観客は違和感なしに観てらっしゃる。しかもよくウケたんです。役者自身にも何の抵抗もありませんですよ。こんなことができるのは狂言ぐらいでしょう。京極さんの前作『豆腐小僧』も、江戸末期、何をしに出てきたのかもわからない妖怪が、大名や太郎冠者たちと一緒に現代に現れるわけです。それでも違和感なく、なおかつリアルな笑いがある。狂言というのは、本当に不思議な芝居です。狂言は何でもやれるということ。それは私の自信になりましたね」

『京極 嘸』について、「自身は新しい古典になると記されてました。」

「狂言は、やりよつによつては確かに何でもやれますが、作者が大事です。新作狂言は江戸時代にも、明治、戦後にもつくられました。大抵一回、二回で終わっているんです。ところが今回の新作は、京極さん自身、これから何百年か上演される古典を書いたとおっしゃってますが、確かにこれからも繰り返し上演されるでしょうね。なぜなら時代と思想を超越していて、しかもリズムがある。これは失礼な意味ではなく、京極さんがおそらく狂言をあまりご存知ないから書けたんだと思います。狂言を知り尽くしている方は、狂言の枠の中に何かを持ち込もうとする。狂言の壁を破らないわけです。狂言というのは、何万とつくられたものが淘汰されて、今、二三百が残っているのですから、枠の中ではほとんど出尽くしているわけでしょう。だから、そこから飛び出さなくてはならない。それはもはや狂言ではないかもしれませぬけれども。狂言の手法を使った現代劇。その代表的なものの一つが京極作品ではないかと思えますね」

最後にグランシップでの公演に向けて、メッセージをお願いします。

「ともかく狂言を、お狂言ではなく、一つの芝居として楽しんでほしいですね。そのための作品としては、今回の『新・死に神』が一番だと思います。ともかく観て笑っていただいて、面白かったら、また次も観に来ていただきたいと思えますね」



4/26(水) チケット残りわずか!

日産フォークリフト静岡販売プレゼンツ
あさひテレビ&グランシップスペシャル

小朝・茂山・昇太の **京極 嘸**

午後6:30開場 午後7:00開演

グランシップ 中ホール・大地

全席指定 S席 5,500円 A席 5,000円

- 1 落語 新釈「妖怪 嘸」 春風亭昇太
- 2 落語 演目未定 春風亭小朝
- 3 狂言 「新・死に神」 茂山千五郎家